

講演会は終了しましたので概要を報告します。

「原発性胆汁性胆管炎の講演会」

日時 令和2年9月5日(土) 13:30~15:00
場所 サンシップとやま 501号室
参加者 本人及び家族等 24名(うち、5名はWeb参加者)
講師 富山大学附属病院 消化器内科 特命教授 高原照美 氏

会場の人数を制限し、Webで同時配信



患者さんと家族を対象として専門医の講演を行いました。参加者からも質問が多く出され、Web参加者からもわかりやすかったと好評でした。

【高原先生の講演内容】

原発性胆汁性胆管炎(PBC)の病態や治療法などパワーポイントで具体的にわかりやすくお話をさせていただきました。

◎病態について

- 中年以降の女性に好発する原因不明の肝疾患で、発症進展には遺伝・環境要因、自己免疫機序が関与。
- 無症候性と症候性の2つのタイプがあり、最初に皮膚のかゆみができることが多い。
- 患者は年々増加傾向。健康診査でALP、 γ GTP、総コレステロールが高値で発見。
- 肝硬変になる頻度は10%以下と少ない。
- シェーグレン症候群、慢性甲状腺炎、関節リウマチなどの自己免疫疾患を合併すること多い。

◎治療について

- ウルソでの治療が主であり、良ならない時に高脂血症薬のベザトールを用いる。
- 無症候性のまま進まない者が8割であり、早期からの治療が大切である。
- 肝臓移植の時期のめやすは、総ビリルビン値が5mg/dl以上

【参加者からの質問】

• 皮膚のかゆみについて

この病気に特徴的な症状で、四肢や体幹に感じることが多い。皮膚に蓄積した胆汁成分が知覚神経を刺激するためである。調査では患者さんの65%の方が感じておられ、何らかの「熱刺激」で誘発されるため、夏や冬に悪化しやすい。

• 自己免疫異常の原因は

自己免疫異常の原因は不明である。胆管の細胞の表面に色々出ている分子をリンパ球が異物と認識し、その異物を排除する役割をもつ免疫系が自分自身の正常な細胞や組織に対して過剰に反応し攻撃を加えてしまうため症状を起こす。